「集荷は増加」 加工進出検討

茂木社長は「（生乳の販売用途を農協系団体が決める）委託販売と異なり、ＭＭＪは（価格が決まっている）庭先買い取り。生産調整など、酪農情勢に何か変化があるたびに集荷が増えている」と強調する。

仙北谷教授は農協も含めた生乳流通の仕組みについて「需給が逼迫（ひっぱく）している中で、今までと同じ方法で良いのか」と疑問を呈しつつ、ＭＭＪも流通量が多くなると「加工など需給調整の方法は課題になってくる」と話した。

＜生乳流通の仕組み＞

全国９の指定生産者団体（北海道はホクレン）が、全国の約97％の生乳を集荷する（沖縄除く）。残りは農協外が集荷するが、ほとんどは自ら乳製品を作る会社。ＭＭＪのような卸専門会社は極めて珍しい。農協系は価格の高い飲用、安い加工用などを含めた平均乳価（北海道は１キロ90円弱）から運送料、消費拡大費などが引かれる。ＭＭＪは全て飲用で、諸費用があらかじめ引かれた100円前後の手取り乳価で契約となる。

鹿追町　瓜幕バイオガスプラント試験稼働　2015年4月8日

１日１万5400キロワット発電

家畜ふん尿の受け入れが始まった
瓜幕バイオガスプラントの原料棟

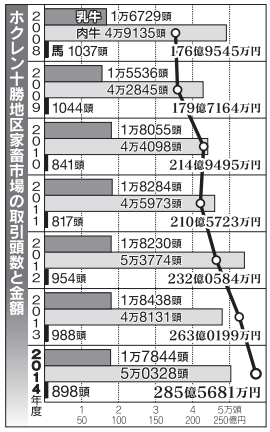
【鹿追】家畜ふん尿を原料とするプラントとして国内最大規模となる「瓜幕バイオガスプラント」（町瓜幕西30線25）が完成した。７日から試験稼働が始まり、農家から集められたふん尿が搬入された。１日当たりの最大ふん尿処理量は210トン、最大出力は1000キロワットで、１日約１万5400キロワットの発電量。

町が建設したバイオガスプラントは、2007年稼働の環境保全センター（町中鹿追、１日当たり処理能力94.8トン＝約1300頭相当、出力300キロワット、１日発電量4500キロワット）に次いで２基目。処理能力は同センターの2.2倍となり、成牛換算で約3000頭分に相当する。受益者は瓜幕地区の酪農家。本体工事費、車両購入費などを含む総事業費は約27億円。

農業ガイド1008号　2015年5月16日
家畜市場　取扱高285億円　ホクレン十勝地区2014年度

ホクレン十勝地区家畜市場（音更町）の2014年度の取り扱い実績がまとまった。全体の取扱高は前年度を8.6％上回る285億5681万円と３年連続で過去最高を更新した。乳牛、肉牛とも府県の生産基盤弱体化で十勝、道内産の需要が高まり、取扱高を押し上げた。

十勝市場は乳牛と肉牛が毎月、馬は年４回開かれている。肉牛は黒毛和種（和牛）が十勝、釧路、根室管内から出荷、乳牛と交雑種（Ｆ１他）は十勝管内から出荷されている。



府県の基盤弱体で需要増

乳牛は頭数が同3.2％減の１万7844頭、取扱高が同2.3％増の76億7878万円だった。乳牛に高値の和牛を受精卵移植（ＥＴ）したり、和牛を種付けしてＦ１を産ませることが増えたりしていることで、乳牛の出荷頭数が減少。一方で、酪農家の増産意欲は高いことから乳牛導入の需要は増え、育成牛、初妊牛など高値で推移した。府県では酪農家の離農などで、後継牛確保が難しくなり、道内産の牛を求めている背景もあるとみられる。

肉牛は黒毛和種、Ｆ１他の合計で頭数が同4.6％増の５万328頭、取扱高が11.3％増の204億7511万円だった。

黒毛和種は頭数が同1.2％増の２万1297頭、取扱高が同10.1％増の111億349万円。十勝でも繁殖農家は減少しているが、大型農業法人の規模拡大などによって頭数は前年並みが維持された。取扱高でも府県の繁殖農家減少で、道内産の素（もと）牛の需要が高まっているため、過去最高水準で推移した。

Ｆ１他は頭数が同7.2％増の２万9031頭、取扱高が同12.8％増の93億7162万円。高値を背景に種付けが増えたことがうかがえる。

馬は繁殖農家の減少で頭数が同9.1％減の898頭、取扱高は0.9％増の４億293万円。12年度に起きた食中毒事案